



国際サーカス村通信 Vol.20 No.02

2015年12月18日(金)

文責 西田 敬一

編集 NPO 法人国際サーカス村協会

〒376-0303 群馬県みどり市東町座間 41-1

Tel 0277-70-5010 Fax 0277-97-3688 <http://www.circus-mura.net> [k-nishida@accircus.com](mailto:k-nishida@accircus.com)

## ● 15年目の発表会

12月12日（土）、13日（日）の両日、サーカス学校創立15周年前期発表会が行われた。といっても、特別な仕込みはなく、自ら手を挙げた油布直輝君が在校生の出演する第一部を演出し、二部は、ナージャ先生のワークショップに参加し、現在、コントーション（軟体造形）を勉強中の中村柚歩君をゲストに招いたのと、この冬、バンコクのストリートパフォーマンスショーに参加したヨシ&ナナ（TALAT TA LATTA）と座布団ジャグリングのヨシ、額で支えた5mほどのポールの上の筒にボールを入れる、ジャグリングの高村篤君らが出演した。

一部の油布直輝君の演出は、ジャグリングの輪やコンタクトジャグリングの水晶玉、フラフープ、そしてシルホイールの大きな輪を使ったオープニング、フィナーレの演出、そして複数人でドレミの音階となって遊ぶコント仕立ての作品などをも作り、見事にひとつのショーとしての作品作りに成功していた。

しかも、練習中にもほとんど成功することのなかった技を決めてしまった生徒がいたりして、つい、僕も夢中で拍手してしまったが、とにかく拍手の耐えない素晴らしいショーであった。

また二部に登場した柚歩君のコントーションも、今、コントーションを行う生徒がいないので、発表会全体を盛り上げる、大きな役割を果たしてくれた。



ヨシ&ナナのジャグリングと空中ブランコを使った作品は、いつもコンビを組んでいる二人が急遽作り上げたもの。というのも、ナナの空中ブランコはコミカルなもので、バンコクのストリートでの持ち時間20分を一人でこなすのはいくらか無理があるのではないかと思ったので、二人でできるジャグリングを入れての作品作りに挑戦してもらった。おそらく二人はかなり頭を痛めたと思うが、サーカス学校での練習を見ていると、少しずつよくなっていくので、方向は間違っていないと思い、恥をかいてもいいからとにかく思い切ってやってこいと送り出した。そんな彼らが無事に帰ってきたのでほっとすると同時に、海外で初演するという大冒険を果たした彼らの大道芸としてのコミック空中ブランコショーを、ぜひみんなにも見てもらいたいと思い、発表会に参加してもらったのである。

それにしても、いつも気になっていたヨシの動き（動かない姿勢）が格段に良くなっているのには、いわゆる一皮向けた感じがあって、いささか驚かされた。今後、もう少しジャグリングの技に遊びの部分を入れて膨らますことができれば、彼らの演技が観客に与える印象も、より奥行きのある楽しいものになるにちがいない。

\*

今回の発表会、二日間でお客はなんと250名であった。これは前々日に生中継されたNHKの番組“ひるブラ”の影響が大きかったに違いない。実はこの秋は、TV取材が集中していた。TBSに始まって、NHKの朝の番組、地元群馬テレビと続き、締めが“ひるブラ”である。発表会前日からかなりの電話がかかってくるもありました。なんと、発表会の後には、種子島の女性からも電話があり、来年はぜひ行きたいですが、来年もありますかと聞かれたほどである。

テレビの影響たるや怖るべしだが、たくさんのお客が見えるのは、何よりも嬉しいし、生徒たちの励みになるのは言うまでもないし、映像を見てサーカス学校入学を考える若者もでてくるだろうから、今後も、面倒だと思わずに、取材を受け入れていきたい。

\*

それにしても、サーカス学校を始めて15年目を迎えるのに、正直あまり実感がない。10年目ぐらいまではなんとなくきてしまい、2011年の原発事故、放射能汚染の影響で一時休校。この半年間の休校時期、僕としては相当悩んでいた。学校そのものを他に移そうかと、何箇所か足を運んで見に行ったりもした。だが、見えそうな場所があっても、実際に移動させるとなると、先生と生徒の宿舍の問題、そしてここに建てている資料館のことなど、簡単にサーカス学校の移動だけでは済まない問題が多々あり、身動きが取れないことを痛感させられた。

やがて体育館周辺、校庭など、市が除染をしたので、現地でサーカス学校を再開したが、除染そのものは決して十分ではない。十分な除染を行うことは不可能なのだ。だが、そんな国土にしてしまったのに、原発を再稼働させる、いまやこの日本はあってはならない状況に漂う泥舟状態なのだ。そこでもなお、人々は生きていかなければならない。ぼくらの学校もそんな環境でやっていかなければならないのである。

この国が米英仏などと一緒になり、テロとの戦いという戦争に加担しようとしていこうとしている状況で、僕らは覚悟しなければならないと思う。原発の再稼働を止められず、放射能汚染水はアンダーコントロールされているという首相の大嘘で決まってしまった東京オリンピックに邁進する愚行のなかで、金持ち・資本主義の奴隷として生きているという自覚とその覚悟を。

サーカス学校は次の20周年に向けて、次の一步を踏みだします。

そして生徒たちが育ち、その演技で、この世の中の有り様に異議を唱え、さまざまに戦っている人々を楽しませ、笑いを届けるために。（西田敬一）



## ●平成26年度事業報告書

### 1 事業実施の成果

本年度は、サーカス学校を継続させ、より積極的な活動を行うために注力することを考え、予算的に負担が大きくなる“サーカスはリヤカーに乗って”の沖繩辺野古・高江行きは延期することにした。学校の活動に注力するために行ったのは、生徒たちが舞台に立つ、あるいは大道芸をおこなうために必要なことを指導し、また体験入学、ワークショップなどもただ受け入れるだけではなく、より積極的に語りかけて、そうしたことを通してサーカス学校存続の意義を再確認する作業に取り掛かったと言えよう。

特に、今年4回目となった、富士見市文化会館の“サーカス・バザール”では、生徒たちの出演を増やす、プロとなるための自覚そして必要な技量（失敗をしないこと）の大切さを学んでもらうことにした。もちろん、他の仕事でも、こうしたことを本人が意識して取り組まないことには進歩はないので、その点を繰り返し指摘し、こちらもそのことをより意識していたと言えよう。

まずは、本人のやる気を尊重する、これまではそのやる気が生まれてくるのを待つ体制でいたのだが、現在の生徒が2、3年生になってきたので、これから先のことを考えて指導すべきと思っただけのことである。これまでの生徒たちはどちらかというと、自分のやりたいことがはっきりしていたので、その点では余計な口出しをせず、問題点を指摘すればよかったのだが。

このことはこれから入学してくる生徒たちにも共通すると思われるので、今期は、新しい生徒たちに対する指導の学習をする時期であったということがいえるのかも知れない。ある意味では、当サーカス学校の指導方法にプラスになる体験を得たということである。

今や大道芸にしても、その水準は極めて高くなっていて、ある程度の技ができれば通用するというレベルではない。お客を引きつけ満足させるには、“ぼくはこれができます”といった程度では、お客に相手にされない。見巧者になっているお客を満足させるためには、どこかで、なにかで他のパフォーマーとは違った色を出さなければならないということでもある。

そうしたことを指導するために、僕らもまた次の指導ステップを準備しなければならない。そうしたことを意識させられた一年でもあった。

## 2 平成27年度事業計画

サーカス学校が15年目に入った本年度。福島第一原発事故による放射能汚染の影響で一時休校を余儀なくされたとはいえ、15年間継続できたことは、会員の方々はじめ多くの方々のご支援があつたことと深く感謝するとともに、これから先のことを考えると、まだまだ山あり谷ありだと思わざるをえない。

とはいえ、心を新たにして、この先の5年、10年をやり続ける気持ちを持ちたいものである。

今年は10月にもナージャ先生のワークショップを行った。毎年6月に行っているのだが、今年の6月のワークショップ時に、ぜひ秋にもやってほしいという声があり、今回初めての試みとして年2回行った。本来は、世の中の学校が休みの時期に行えばいいのだが、こちらもその頃は休みなので組むことができない。ワークショップの回数を増やしたからといって、高校生や中学生の場合は、やはり学校を休まなければならないので状況は変わらないと思うけれども、年2回のどちらかであれば、多少の可能性の幅は広がるかなとも考えて実施した次第である。今回は小学生1名の参加があつた。

もうひとつ考えているのは、サーカス学校の卒業生、在校生のチームを組んで、学校公演の可能性を追求することである。これまでも依頼があつて、群馬県下の小学校などの公演は行っているが、他の県にも活動範囲を広げたいと思っている。難しいのは、卒業生に参加してもらう場合、それぞれ大道芸などで働いているので、スケジュール調整が難しいことである。また、公演実績がないとだめなので、そうした資料を用意しなければならないことだ。いままでそうしたことには積極的に取り組んできてはいないが、本年度はそうした活動範囲の拡張をやっつけようと思う。

現在、来年8月にサーカス学校公演が県外でできることになった。この公演により、計画にも弾みがつくと思われるし、さらに本格的な公演事業としての可能性も出てくるものと思われる。

あるいは、これはサーカス学校の活動ではなく、協会としてのサーカス文化伝達のためのサーカス公演という位置付けで考えるべきことかもしれない。その可能性も本年度の事業計画として考えていきたい。

(西田敬一)

## ●『17年目の大誤算!? plan-B コメディナイト』を観て

1998年3月18日～2001年2月24日まで、中野富士見町のplan-Bという小さなホールで、毎回出演者を替えながら、ほぼ月に一回「plan-B コメディナイト（通称プラコメ）」と題したヴァラエティショーが

開催されていた。それまでストリートやイベントで仕事をしていたパフォーマーたちは、ここで営業とはまったく関係のない、自分たちが表現したいことを自由に演じた。延べにすれば50組以上のパフォーマーたちが出演していたと思う。このプラコメが17年ぶりに復活した。「plan-B コメディナイト Again (ふたたび)」は、12月11日と12日の2日間3回公演され、kaja、クラウン・リキ、重森一(un-pa)、センチュリーカミヤマ、ダメじゃん小出、ななな、ハンガ〜マン、VJコミックカット、ふくろこうじ、三雲いおりという10名のパフォーマーが出演した。ほとんどの出演者はプラコメ立ち上げ当時のメンバーであった。

初日と2日目の夜の公演を見たが、文句なしに楽しめた。しゃべくり、マイム、クラウン、マジックなど内容もバラエティーに富んでいた。こういう笑いの場にいるのが実に久しぶりのような気がした。そして大事なことは、確かに年はとったが、10人の出演者が伊達に年はとっていないぞと、それぞれのいまを表現していたことだった。17年ぶりのプラコメに出演するにあたって、出演者は自分なりのテーマを設定して臨んでいた。なななは以前プラコメでやっていた「お得な気持ち」という作品をつくり直していたし、センチュリーカミヤマはドジなマジシャンというネタでまた挑んできた。ふくろこうじはプラコメで何度もとりあげていた椅子をつかったクウランニングに挑戦、VJコミックカットは自分の青春映画という『マッドマックス』をネタにしていたかと思えば、トリで登場した三雲いおりは3回とも違うネタに挑むという課題を自らに課していた。ハンガ〜マンはハンガ〜マン伝説のルーツを描き、kajaは大道芸ではできない小さな手技中心のパフォーマンスを見せ、重森一はしゃべらずに、身体の動きだけできちんと作品をつくった。福島から夜行バスで駆けつけたさわめちから君ことクラウン・リキは、いま活動の中心になっているというクラウン芸をクラウンメイクで演じ、プラコメでジャグリングからしゃべくりの芸人になったというダメじゃん小出は、東京オリンピックのエンブレムをネタにしていた。それぞれが一番やりたかったこととか、やらなければと思ったこととか、これしかできないということにチャレンジしながら取り組み、それを落ちついて演じていた。17年前のプラコメはノリの良さと閃いたアイデアをとにかく次々に表現していこうという勢いが魅力だった。毎月ネタをつくるなかでの、つくる喜びのようなものが演者から溢れ出ていた。今回はそれとはまた違う魅力を感じた。17年間という決して短くはない時間の中で、それぞれひとりひとりがこの世界で生きてきたなかで、熟成されてきたもの、ほんとうの実力というものが、自然にかもしだされていた、それが見ていて伝わってきた。

三雲いおりがライブの最後にみんなそれぞれ元気にやっています、そういう姿もたまに見てやってくださいと言っていたが、またいつか、一年後になるのか三年後になるのかわからないが、みんなの元気ないまを見てみたいと思った。(大島幹雄)



# 最新サーカス公演情報

## ★木下大サーカス

●立川公演 公演期間 2015年12月19日(土)～2016年2月29日(月)

●休演日；毎週木曜日と1/13(水)、2/10(水)、2/17(水)。ただし2/11(木祝)は開演。

●会場；イオンモールむさし村山 南特設会場 ●電話；東京むらし村山公演事務局 TEL042-565-0405

## ★ポップサーカス

●岡崎公演 公演期間 2015年12月26日(土)～2016年2月14日(日)

●休演日；12/30,31,2016年1/7,14,21,28,2/4,10

●会場；岡崎公園 特設大テント ●電話；岡崎公演事務局 TEL0564-64-7444

## ★ダイハツ シルク・ドゥ・ソレイユ「トータム」

過去と未来で繰り広げられる「人類の進化」をテーマに無限の可能性を描く壮大な物語。

●東京公演 2016年2月3日(水)～2016年4月10日(日)

●東京追加公演 2016年4月19日(火)～2016年5月22日(日)

●会場；お台場ビッグトップ(ゆりかもめ「台場」駅より5分) ●詳細は <http://totem-jp.com/>

## その他公演情報

### ★Takeshi and The Escargots(タケシ アンド ザ・エスカルゴッツ) “ S-CARGO A GO-GO ”

コミックテクノと歌とパントマイムで、空を飛ばす？愉快にメロウにボンポヤージュ！

●作・演出・出演；シルヴブレ&アレックエレジャポネーズ 音楽；アレックエレジャポネーズ

●期間；2016年1月14日(木) 20:00開演、15日(金) 15:00/19:30開演

●チケット；前売2500円 当日2800円 ●会場；plan-B(丸ノ内線「中野富士見町」駅より徒歩)

●チケットご予約；ACC TEL03-3403-0561 メール；sivouplait@accircus.com

### ★ひとり芝居フェスティバル APOFES2016

ひとり芝居だけの演劇フェスティバル。16日(水) 17:30と27日(水) 19:00よりkajaさんが出演します。

●期間；2016年1月15日(金)～31日(日) ※20日(水)と26日(火)は休演。

●劇場；APOC THEATER(小田急線「千歳船橋」駅より徒歩5分)

●チケット・1回1500円(日時指定) 4回4000円(期間中使える回数券) フリーチケット7000円(期間中どの公演を何回でも観られる券) ●お問い合わせ；info@apoc-theater.net

### ★まちづくりcafé 上州屋 第6回 企画展

NPO法人国際サーカス村協会資料展「サーカス・カフェ」&高須賀優 プリキのサーカス団

■サーカス資料館所蔵のサーカス資料と、高須賀優さんの作品・プリキのサーカス団の展示を行います。

●期間；2016年1月16日(土)～1月31日(日) 11:00-18:30 ●休館日；17、18、25日

●会場 〒309-1626 茨城県笠間市下市毛271-1 ●入場無料

●主催；上州屋を楽しむ会 ●企画；笠間市地域おこし協力隊 ●お問い合わせ；080-1133-7092(友田)

### ★山本光洋 かかしになるために 総集編

言葉と格闘し物と遊んだ10年間で作りためたパントマイム作品集。あんな作品こんな作品一挙公開！

① かかしになるために総集編1 ●2016年1月22日(金) 19:30、23日(土) 14:00と18:00

② かかしになるために総集編2 ●2016年4月8日(金) 19:30、9日(土) 14:00と18:00

●チケット料金；予約2500円 当日3000円 ●ご予約；TEL&Fax 03-3951-1999

●会場；東京ノーヴィ・レパトリーシアター(小田急線・京王井之頭線「下北沢」駅)

